

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	環境経済学 (Environmental Economics) 372053-14120					担当教員	西俣 先子 (ニシマタ ヒロコ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	必修	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要									
環境問題と経済の関わりについて理解することを目的とする。授業は大きく分けて1. 基礎知識の習得、2. 理解の深化を狙ったテーマ別の学び、3. 問題の分析や問題解決の手法の理解の3つの部分から構成される。1. では環境問題について考えるための基礎知識として、環境問題の歴史や今後の環境問題を考えるうえで重要なコンセプトについて学ぶ。2. では環境と貿易、公害問題などの個別テーマを取り上げ、具体例を確認しながら、環境問題と経済の関わりについて考える。3. では環境問題を経済学の視点から分析し、環境問題が発生するメカニズムや問題を解決するための政策手法等について理解する。なお、説明する場合、数式ではなく図を使って説明する。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
専門的知識・技能を活用する能力									
③ 授業の進め方・指示事項									
授業内容を理解しやすくするために映像等を利用することがある。提出されたコメントの利用、質問等のやりとり等を行いながら授業を進める。配布した資料を別の授業回で使用する場合、授業中に指示するのでよく確認すること。授業中に出題した課題の提出期限を守ること（提出期限を過ぎたものは受け取らない）。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安									
(i) 環境問題と経済の関わりについて理解するための知識を身につける									
(ii) 環境政策の手法について理解し、説明できるようになる									
⑥ テキスト（教科書）									
テキスト指定なし。代わりに、授業時に資料を配布する。									
⑦ 参考図書・指定図書									
参考図書 宇井純(2006)『新装版 合本 公害原論』亜紀書房									

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S 到達目標を越えたレベルを達成している	A 到達目標を達成している	B 到達目標達成にはやや努力を要する	C 到達目標達成には努力を要する	D 到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 環境問題と経済の関わりについて理解するための知識を身につける	環境問題と経済に関する用語を、授業のノートを使用せずとも説明でき、さらにノートに書かれていない用語も駆使できる。	環境問題と経済に関する用語を、授業のノートを使用せずとも説明できる。	環境問題と経済に関する用語を、授業のノートを使用すれば説明できる。	環境問題と経済に関する用語を、授業のノートを使用し、さらに教員の支援があれば説明できる。	環境問題と経済に関する用語を、授業のノートを使用し、さらに教員の支援があっても説明できない。
(ii) 環境政策の手法について理解し、説明できるようになる	環境政策の手法について説明したうえで、どのような課題にどの政策手法を組み合わせ使用すべきかを提言することができる。	環境政策の手法について説明したうえで、どのような課題にどの政策手法を使用すべきかを提言することができる。	環境政策の手法にはどのようなものがあるかを説明することができる。	環境政策の手法にはどのようなものがあるかを、教員の支援があれば、説明することができる。	環境政策の手法にはどのようなものがあるかを、教員の支援があっても説明することができない。

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	70%		20%			10%		100%
(i) 環境問題と経済の関わりについて理解するための知識を身につける	40%		20%			5%		65%
(ii) 環境政策の手法について理解し、説明できるようになる	30%					5%		35%
フィードバックの方法	課題は総評を公表する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
引き続き、丁寧な解説と分かりやすい授業資料等の活用を行いたい。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	イントロダクション	シラバスを熟読し授業の目的を理解したうえで授業に参加する	10分
2	経済活動の拡大と環境問題	授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
3	経済成長とは何か？	授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
4	持続可能な発展のために	授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
5	【環境と貿易】 環境と貿易について考えるための基礎知識	授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
6	【環境と貿易】 環境と貿易の両立に関する歴史	授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
7	【環境と貿易】 環境と貿易の両立に関する議論	授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
8	【公害・環境問題】 公害・環境問題の歴史	授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
9	【公害・環境問題】 公害・環境問題の本質 1（公害の事例を知る）	授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
10	【公害・環境問題】 公害・環境問題の本質 2（公害の事例と対策）	授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
11	【公害・環境問題】 経済学の視点からみる公害・環境問題	授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。 *課題を出すので、提出期限までに提出すること。	90分
12	【環境政策】 環境政策の手法	授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
13	【環境政策】 経済的手法 排出量取引	授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
14	【環境政策】 経済的手法 税制・財政	授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。	60分
15	まとめ	授業終了後にこれまでの授業で示した重要箇所の確認を行う。	90分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL を採用する。授業中にコメントを記入してもらい、コメント内容を利用する形で授業を進める。また、学生と問答をかわしながら授業を進める。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性